心のメッセージ　３月

『感謝』

『感謝』というテーマで思い出すのは、祖父のことです。

私は小学４年生のときに、両親から離れて、祖父がいた鹿児島へ転校しました。まったく知らない土地で不安でしたが、私が学校に慣れるまで、祖父が一緒に登校してくれました。祖父は当時 70 歳で、心臓の手術から退院して間もない頃でした。往復４キロの登下校は、とても体にこたえたと思います。そのうえ、休日には私を連れて、海や山で一緒に遊んでくれました。祖父は、私に、自分のふるさとを好きになってほしかったのだと思います。

そんな思いとは裏腹に、中学生になった私は、毎日のように祖父に八つ当たりをしました。「早く大阪へ帰らせろ」「鹿児島なんか大嫌いだ」と事あるごとに祖父を困らせました。それなのに祖父は怒らずに、いつも黙って聞いてくれました。

高校進学を機に、私は祖父の家を出て１人暮らしを始めました。そして、大学を卒業して働き始めてからは、たまに電話をするぐらいで、会いに行くことはほとんどありませんでした。

そんなある日のこと、親戚から祖父が急逝したと連絡が入りました。

葬儀の夜、親戚が私のもとへノートの束を持ってきました。祖父が毎日欠かさずに書いていた日記でした。ふーっと大きなため息をついてから、気持ちを整えてページをめくりました。すると、

「今日は広から電話がなかった。便りがないのは元気な証拠。ありがとう。」

「今日は広から電話がきた。声を聞かせてくれて、ありがとう。」

と同じような文章が、毎日、毎日くり返し書かれていました。

祖父は、きっと祈る思いで日記をつけていたのでしょう。私が一日を無事に過ごすたびに、「ありがとう」と神様に感謝したのだと思います。それなのに私は、祖父に何回「ありがとう」と言えたでしょうか。いつか伝えようと思っていただけで、ついには伝えられなくなってしまった。後悔とあまりの情けなさに、ずっと涙が止まりませんでした。

「ありがとう」は感謝を伝える最強の言葉だと思います。しかし、言葉にして伝えなければ相手には永遠に届きません。あなたは大切な人に「ありがとう」と伝えていますか？

年　　組　　番　　名前